

## 日本の観光洞 -39

水島 明夫 (MIZUSHIMA, Akio  
洞穴科学調査会所属 福岡県在住)

## 福岡県 Fukuoka -ken

いよいよ小生の地元、九州に上陸です。まずは“平尾台”で有名な福岡県を。

3億年くらい前に南の海で作られた造礁珊瑚が、フィリピンプレートに運ばれ北上。できた付加体が、秩父古生層に相当する呼野層群で、秋吉帯からの延長で考えられている平尾台石灰岩層だ。

そして約1億年前、北部九州から西日本に広くマグマが上昇、この白亜紀花崗岩類の貫入を受け、平尾台石灰岩層は再結晶、サンゴなどの化石は消失、代わりに平尾台の“羊群原”に代表されるような丸いカレンフェルドのカルスト地形ができることになる。ちなみに、この結晶質石灰岩からなるカルスト地形、広く分布するのは火山が多い日本でも福島“阿武隈”と“平尾台”くらい。世界を見わたしても、とても貴重な地形と言える。

その後、平尾台石灰岩層は、南北性の複数の断層によって右図のように寸断され、その中で最大規模なのが“平尾台”である。



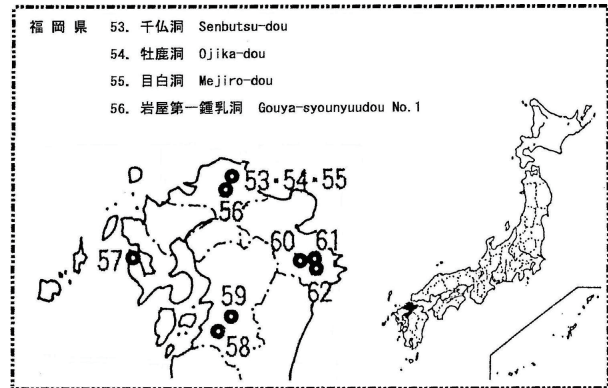
平尾台の石灰洞 1982より

平尾台には石灰洞が約150。カルスト台地だけあって100m近い高低差を持つ竪穴から、排出系の機能をもって台下へ水を流出する横穴など多種多様。竪穴では多段式の“こうむそう穴”、ワンピッチー55mの“人參窟第一洞”、横穴では総延長1,000m超えの“不動洞”、入れる人を穴が選ぶ“雷神洞”などが面白い。個人的には斜洞の“芳ヶ谷第二洞”が水理学的に絶対外せない穴でしょう。また、平尾台の北東にある“青龍窟”は、総延長は軽く2,000mを越えるが、日本でも一番の曲流と階層構造で測量不能なのが残念。なお“青龍窟”は一時期観光洞でした。

平尾台周辺の石灰岩体は鉱区設定がされ、盛んに採掘されていることもあり穴の報告が少ない。かろうじて岩屋地区に10個弱。古処山にもいくつか。小倉北区から門司区の足立山周辺のレンズ状石灰岩にも数個の報告がある。ちなみに小生の家は、その足立山の麓です。

福岡県の他のエリアは石灰岩自体が少なく、背振山に“水無鍾乳洞”が総延長1,716mと、三郡変成岩との境界に穴が延々と伸びており、かなり面白い。一時期観光洞であったほど有名で、現在でも駐車場から徒歩1分と至便だが、観光洞ではない。

福岡県の観光洞は、観光地としても有名なことから平尾台に、水の中をジャブジャブ歩く“53千仏洞”、日本で唯一に近い竪穴観光洞“54牡鹿洞”、観光洞ではないところがとても素晴らしい観光洞の“55目白洞”の3つ。岩屋地区に管理洞として照明が設置されている“56岩屋第一鍾乳洞”がある。



石灰洞ではないが、なかなかの穴があるので紹介を。志摩町の“芥屋大門”は高さ65m奥行き90mもある国指定の天然記念物海食洞。是非海から眺めたい。

北九州市小倉南区長野には、なんと花崗岩岩塊の中に穴がいくつも、なかには100mを超えるものも。山口県の“万倉大岩郷”みたいな観光地になっていればもっと分かりやすいのだろうが、ここは岩塊そのものが植林に覆われ、よく見えないのが残念。

## 53. 千仏洞 Senbutsu-dou

横穴・全長約716m + α

## &lt;特色&gt;

平尾台を代表する観光洞。平尾台上に降った雨が、“芳ヶ谷第二洞”を流れ“千仏洞”に現れる。田川変成岩に規定された水が“千仏洞”洞内を流れ、その水流が創った峡谷と造形美の数々。

結晶質石灰岩がなめらかに浸食され、奥部は水に足を洗われながら歩くという、日本では“千仏洞”と福岡の“入水鍾乳洞”だけの、探検気分がしっかり味わえる。国指定天然記念物。

## &lt;所在地&gt;

福岡県北九州市小倉南区平尾台 Tel 093-451-0368

## &lt;交通&gt;

JR 鹿児島本線小倉駅より日田彦山線石原町駅へ。そこからカルストタクシーで約15分、平尾台自然観察センター下車。センターからは見晴し台、貝殻山のふもとを通過して、平尾台南東端の千仏洞まで徒歩約30分。絶好のカルストハイキングコースだ。

やはり自家用車が便利、九州自動車道小倉南インターから、南へ約20分。なお、平尾台上への山道は、